

令和3年度1学期始業式 式辞

令和3年4月8日

新年度が始まりました。

こうしてグラウンドに立つと、春の訪れを実感します。やはり、春の来ない冬はないと思いましたが、本来ならば「希望に満ち満ちて」といった枕詞で挨拶をするべきところなのでしょうが、まだまだ、私たちの活動の多くに、様々な制約を受ける状況が続きます。けれども、この一年、私たちは新型コロナへの対応の仕方を少しずつではあるけれども学んできました。こうした知恵を用い、正しく恐れ対応しながら、可能な限り、本校らしい活動に取り組んで行きたいと思えます。

二つ話をします。一つ目は、「努力は報われる」ということです。

水泳の池江璃花子選手が、東京オリンピックの代表に内定しました。2年前に白血病を公表。厳しい抗がん剤治療などの後、プール練習を再開して1年です。池江選手はインタビューで「つらくてしんどくても、努力は必ず報われると思った」と涙ながらに話していました。本当につらかったことだろうと推察します。

昨年度の1年間は、本校の生徒諸君にとっても、先生方にとっても、つらくしんどい年でした。試練の年でした。それは現在も続いています。まもなく実施する予定の新入生歓迎行事や文化祭では、昨年の秋から準備にかかり、昨年できなかった分、あれもこれもしよう、地域との連携にも取り組んでいこうと様々な案を作っていました。しかし、年かかわって緊急事態宣言が再発令され、それまでの計画を反故にせざるを得なくなりました。ここへきて、まん延防止等重点措置が適用になり、更に計画の変更が必要になっています。案ができて制約がかかり、新たな案を作り直すという繰り返しです。これに負けず、粘り強く取り組んでくれている生徒諸君や先生方に、僕は、大いに敬意を表します。

しんどいときにこそ、地道に取り組むことができる力、底力こそ、神高生の本領です。本領を発揮している生徒や先生方に、池江さんのことばを送りたいと思えます。「努力は必ず報われる」。思ったとおりの報われ方とは限りません。でも、努力は決して無駄にはなりません。「努力は必ず、何らかの形で、報われる」。少なくとも、底力、人としての総合力は間違いなく強力になっていくことを、僕は請け負います。

二つ目は、これからの1年を具体的にイメージしよう、ということ です。

1年後の自分を想像しましょう。想像力は、おそらく人間だけに与えられた、とても大切な力です。人を人たらしめている力です。目標を明確にし、目標実現のために計画を立てる。ぜひ、今日はそのような一日にしてください。

さて、今日はこの後、本当に久しぶりに校歌を斉唱します。73回生は、1年間校歌を斉唱できずとても残念な思いで卒業していきました。僕はとても申し訳なく思っています。僕は、神戸高校の校歌は、日本一の素晴らしい校歌だと思っています。美しいメロディー、私たちを励ましてくれる誇らしい歌詞を、歌うことのできる喜びを噛みしめ、胸をはって歌いましょう。

この一年、皆さん一人ひとりが、自己実現に向けて大きく成長する年となるよう願って、新年度の式辞とします。